

# 平成 28 年度第 2 回宮崎県河川整備学識者懇談会

## 議事抄録

### 1. 開催日時

平成 29 年 1 月 18 日 13 : 30 ~ 15 : 45

### 2. 開催場所

宮崎県庁 3 号館 351 会議室

### 3. 議題

#### 3.1 開催

#### 3.2 あいさつ

#### 3.3 議事

(1) 第 1 回河川整備学識者懇談会における指摘事項と対応

(2) 庄手川水系河川整備計画 (案)

(3) 浦上川における治水対策の検討結果

(4) 浦上川の整備における環境への配慮の考え方

(5) 浦上川水系河川整備計画 (原案)

(6) 今後のスケジュール

#### 3.4 閉会

## 4. 出席者

(委員)

所属	役職名	氏名
宮崎大学	名誉教授	杉尾 哲
宮崎大学工学部	教授	鈴木 祥広
宮崎大学工学部	教授	村上 啓介
宮崎大学工学部	教授	入江 光輝
宮崎大学	名誉教授	神田 猛
宮崎大学農学部	教授	三浦 知之
宮崎県弁護士会	弁護士	松浦 里美
宮崎県土地改良事業団体連合会	常務理事	三好 亨二
綾町役場エコパーク推進室	照葉樹林文化推進専門監	河野 耕三
NPO 法人 宮崎野生動物研究会	副理事	中村 豊
鉦脈社	専務取締役	川口 道子
県文化財保護審議会	前会長	甲斐 亮典

(事務局)

宮崎県県土整備部河川課	課長	阿佐 真一
	課長補佐	小倉 弘康
	計画調査担当リーダー	戸田 正人
	河川担当リーダー	宇治橋 正行
	計画調査担当	甲斐 裕之
	河川担当	森川 慎也

(配布資料)

	第2回懇談会次第等
資料-1	指摘事項、意見と対応
資料-2	庄手川水系河川整備計画（案）
資料-3	浦上川における治水対策の検討結果
資料-4	浦上川における環境への配慮の考え方
資料-5	浦上川水系河川整備計画（現案）
資料-2	五十鈴川水系河川整備計画（案）
資料-6	今後のスケジュール
参考資料-1	五十鈴川水系河川整備計画（案）
参考資料-2	第1回懇談会議事抄録
参考資料-3	対象河川における流域の特徴
参考資料-4	環境調査の結果とりまとめ
参考資料	確認種リストまとめ

## 5. 議事抄録

議事	議事要旨
1.開会	<p><b>【事務局】</b> 事務局により配布資料確認</p>
2.あいさつ	<p><b>【河川課長挨拶】</b></p>
3.議事	
<p>(1) 第1回河川整備学識者懇談会における指摘事項と対応</p>	<p><b>【事務局】</b> 事務局により第1回河川整備学識者懇談会における指摘事項と対応について説明(資料-1)</p> <p>会長) 五十鈴川河川整備計画(案)については、特に意見がない様なので、こちらの案で承認いただきたい。</p>
<p>(2) 庄手川水系河川整備計画(案)</p>	<p><b>【事務局】</b> 事務局により庄手川水系河川整備計画(最終案)について説明(資料-2)</p> <p>委員) 資料-2 P.5_10 行目に「山足部」という表記があるが、正しいのか。 事務局) 「日向市史の自然編」を参考に記載している。</p> <p>委員) 資料-2 P.12 河川写真において距離数値を示す際に、数値に「k」を付けている場合と付けていない場合があるが、表記を区別する理由があるのか。 事務局) 河川の距離標を示すキロメートル表示である。指摘箇所に関しては記載漏れであるため、表記を修正する。</p> <p>委員) 資料-2 P.5 下から10行目にある「ツルヨシ群落」は、「ツル・ヨシ群落」ではなく、「ツルヨシ群落」という理解で良いのか。 事務局) 「ツルヨシ群落」である。種名に関しては、前回合同現地調査時に意見いただいた。</p> <p>委員) 河口部には希少種ではないが、限定的に生息する生物もいるため、今後詳細な調査方法も検討する必要があると思われる。従来の調査方法では、底質の中に生息する生物を見落とす恐れがある。</p>

<p>(3) 浦上川における治水対策の検討結果</p>	<p><b>【事務局】</b> 事務局により浦上川における治水対策の検討結果について説明（資料-3）</p> <p>委員）資料-3 P.9 平面計画上で橋長不足という記載があるが、どういった対策が必要なのか。</p> <p>事務局）現況の橋梁は橋長が短く、河道掘削を実施した際に橋長が不足することが考えられるため、橋梁の架け替えが必要になる。</p> <p>委員）資料-3 P.3 雨量データを示しているが、この観測所は流域内にあるのか。流域外の降雨を解析に用いる場合、流域の降水状況を適切に表していない可能性がある。</p> <p>事務局）雨量観測所は流域外である。流域内に雨量観測所がないため、近傍観測所の雨量値を使用せざるを得ない。</p> <p>委員）整備計画で決定した確率規模が適正であったか、策定後、流域内に雨量計を設置して検証する等の対応を検討することが望ましい。</p> <p>事務局）今後の課題として、参考にしていく。</p> <p>委員）宮崎県の雨量計密度はどれほどなのか。ある程度の密度で設置されていれば降雨の空間分布の算定等の対応策が考えられる。</p> <p>事務局）延岡市に関しては、雨量計は2箇所しかない。浦上川流域は雨量観測所が少ない地域である。</p> <p>委員）雨量データを途中から変更しており、両者とも流域外であるため、データの信頼性に欠ける恐れはないか。</p> <p>事務局）資料には近傍の観測値を表示するという意味で、途中から県観測所の加草の値を表示しているが、流出解析に関しては、継続して観測されている延岡観測所の降雨強度式を用いた。</p> <p>会長）県管理区間外上流の国道橋が流下能力上のネック箇所になっているが、整備計画では定義しようがない状況にある。県としてはどのような考えを持っているのか。</p> <p>事務局）国道管理者である国交省は県の整備進捗に合わせて整備する方針であるが、具体的な内容に関しては今後協議予定である。また、市下水道やJR等、関係者協議を継続していく予定であり、2月16日には今回の検討結果を基に関係機関協議を実施予定である。</p>
-----------------------------	--

	<p>会長) 2号橋付近を整備すると、流下能力が大幅に向上することが予測されるため、通常は下流側から整備するが、ネック箇所の整備効果も踏まえて整備順序を検討して頂きたい。</p>
<p>(4) 浦上川の整備における環境への配慮の考え方</p>	<p><b>【事務局】</b> 事務局により浦上川の整備における環境への配慮の考え方について説明(資料-4)</p> <p>委員) 両側回遊型の魚類等に関して、その場所で産まれた稚魚が翌年にまた同じ場所に戻って来るかは不明であり、他の地域から同種の別個体が移動して来ている可能性があることから、これまでにその場所で確認されていない種でも、条件さえ整えば新たにその場所が生息環境になる可能性がある。浦上川の河口付近も、これまでに確認されていない種の潜在的な生息環境になり得ると考えられる。</p> <p>事務局) 新たな種を誘導することは、現況の環境に影響を及ぼす可能性も懸念されるため、基本的に現状維持に努める方向で検討したい。</p> <p>会長) 環境を保全することは前提として、プラスアルファでいかに良い河川にしていくかを検討してほしい。4号橋上流の山付き区間は非常に良い環境が残っており、河口部をきちんと整備すれば良い河川になると考える。戎橋上流の河床掘削が必要となる区間は、掘削方法次第で生物の生息場を確保・改善できる可能性が十分にあるため、詳細設計時は留意頂きたい。</p> <p>事務局) 掘削方法等、整備の詳細設計時には環境配慮を視野に、再度委員の方々に意見を伺いたいと考えている。</p> <p>委員) 下水道の整備計画や状況はどうなっているのか。下水道整備が未完了の場合、完了後の河川への流入量や水質の変化は想定しているのか。</p> <p>事務局) 浦上川流域の下水道整備はおおむね完了している。今後は接続率の向上という課題があるため、今後検討していきたい。</p> <p>委員) 資料の地図方角が統一されていないため、対比しにくいので修正すること。また、2号橋付近の寄り洲に関しては、都市下水路側への移動等も踏まえて柔軟に整備方法を検討するべきである。</p> <p>事務局) 寄り洲区間の移動、保全に関しては参考とさせていただきたい。</p>

	<p>委員) 整備後、当初の計画との乖離がある場合が多々あるため、整備完了まで留意して頂きたい。また、植物の移植は非常に難しい対策であるため、実際に施工業者等が対応可能かという点も懸念される。</p> <p>会長) 宮崎県では河川環境モニターを募集している河川もある。委員だけでは目の届かない部分もあると考えられるため、ぜひ意見を参考にして頂きたい。</p> <p>委員) 底生生物は魚類と比較して移動能力が低く、近接する水域とのつながりが大きい。様々な場所の個体群がそれぞれ相互に関係して、全体を維持しているというメタポピュレーションの考え方があるが、妙見湾もそのような水域である。一部が壊れると全体が壊れる可能性があり得るので、きちんとモニタリングをしてほしい。</p> <p>工事により浦上川の環境が多少変わるのには仕方がないと考えるが、湾内には他に重要な場所があるため、さらに工事が広がって妙見湾全体になった場合が懸念される。治水等の目的で工事をする必要が出てくると思うが、きちんと見ていくことが大事であり、また他の事例にも応用していくべきである。</p> <p>会長) 本検討会のような学識者懇談会の意見を県内部署間で共有できるような機会があれば、ぜひお願いしたい。</p> <p>委員) 市街地を流れる河川としては、かなり良い環境が残っている。特に山付き区間は工事方法次第で、大幅に改善することも考えられるため、工事完了後の状況等も踏まえて検討いただきたい。</p>
<p>(5) 浦上川水系河川整備計画 (原案)</p>	<p><b>【事務局】</b> 事務局により浦上川水系河川整備計画 (原案) について説明 (資料-5)</p> <p>会長) 庄手川本文と距離標の記載方法が異なるため統一すること。 事務所) 距離標表示は、両整備計画で共通の記載に統一する。</p> <p>会長) 五十鈴川河川整備計画では、H28年9月の洪水被害面積が記載されていないため、もし分かるようなら記載いただきたい。</p>

委員) 資料-5 P.17 「河川空間の利用」における記述が不明瞭な箇所があるため修正すること。「これらの良好な河川環境」とはどこを指すのか。また、河川利用は本当はないのか。

事務所) 本文を修正する。なお、中流部の山付き区間を良好な河川環境と考えている。また、これまで河川利用に関しては確認されていない。

委員) それならば、資料-5 P.17 水辺空間の保全・活用という表現は創出・活用とした方がよいのではないか。

事務所) その部分も含めて本文記載を再度検討する。

会長) 管理通路は整備するのか。

事務所) 整備予定である。ただし、山付き区間や、住居が隣接する区間もあるため、片岸のみの整備とせざるを得ない場合もあると考えている。

委員) 資料-5 P.11 水質 BOD 値が AA 類型基準値程度であるが、観測地点が入江に近い感潮域であるため、河川の水質を表しているかどうか疑問である。河川の基準を適応しない方が良いのではないか。

事務所) 現状では河口部のデータしかないので、本文に河口部のデータである旨を記載し、修正を行う。

委員) 具体的な水質に関してではないが、現地では河口付近のゴミや臭いが気になることが度々あった。現地視察時に見た上流部とは差が見られた。

会長) 住民説明会では、下水道の接続率に関しても現状を説明し、接続率向上を促す努力が必要である。延岡市にも相談する必要がある。

委員) 河床掘削により塩分遡上範囲が拡大すると考えられる。海水がどこまで遡上するのか、水理検討上考慮しているのか。それ次第で掘削方法等も変わってくる可能性がある。

事務所) 詳細設計時には、考慮して検討を行う。現状では、塩生植物が見られた 2 号橋上流までは海水が遡上していることを確認している。

委員) 整備後、汽水域が拡大すると環境への影響も懸念されるため、検討時には十分留意すること。

事務所) 掘削方法等については、環境への負荷を最小限に抑えてることぐ



	<p>らいまでしかできないかなと考える。</p> <p>会長) 全川で塩分濃度調査を実施する必要はないが、詳細設計の段階では、どこまで海水が遡上しているのか把握しておく必要がある。</p>
(6) 今後のスケジュール	<p><b>【事務局】</b> 事務局より今後のスケジュールに関して説明 (資料-6)</p>
4.閉会	<p>会長) 本日の意見を踏まえて河川整備計画に反映頂きたい。</p> <p><b>【事務局】</b> 長時間にわたるご審議ありがとうございました。</p>